

シュンペーター著「経済発展の理論(上)」岩波文庫、岩波書店 1977年9月16日刊を読む

「創造的破壊」「イノベーション」(刷新)、「新結合」(あるものとあるものを新しく結びつけること)
「企業者(家)」

1. 「イノベーション」とは「新結合」によって

(1) 「新しい財貨」

消費者の間でまだ知られていない財貨、あるいは新しい品質の財貨の生産。

(2) 「新しい生産方法」

その産業分野において実質上未知な生産方法の導入、サービスの提供方法の導入。決して科学的に新しい発見や発明に基づく必要はない。商品の商業的取り扱いに関する新しい方法も含む。

(3) 「新しい販路の開拓」

当該国の当該産業部門が従来参加していなかった市場の開拓。ただし、この市場が既存のものであるかどうかは問わない。

(4) 「原料あるいは半製品の新しい供給源の獲得」

この場合においても、この供給源が既存のものであるか—単に見逃されていたのか、その獲得が不可能とみなされていたのかを問わず—あるいは始めてつくり出さねばならないかは問わない。

(5) 「新しい組織の実現」

独占的地位(たとえばトラスト化による)の形成あるいは独占の打破。

2. 企業者(家)とは

(1) 企業 新結合によるイノベーションの遂行およびそれを経営体などに具体化したもの。

(2) 企業者 新結合の遂行を自らの機能とし、その遂行に当たって能動的要素となるような経済主体のこと。

(3) 創意・先見の明 新しいことを遂行。

(4) だれでも新結合によるイノベーションを遂行する場合にのみ企業者である。

(5) 従って、彼が一度創造された企業を単に循環的に経営していくようになると**企業者**としての性格を喪失していく。

(6) それ故、だれでも数十年間の努力を通じて常に「企業者」のままでいることは稀である。循環の軌道や現存の結合を変更する動機が常に存在する。

(7) 新しい可能性が周囲の環境からたえず提示され、ことに新しい発明がたえず時代の知識の宝庫に付加される。

(8) 単に「生産を管理する人、生産・経営管理者」と「企業者(家)」は異なる。

① 日常的な事務管理をする人には「企業者」ということばは用いない。

② なぜなら、慣行の軌道から一步も出ることができない経営は数百年にわたって全く変化せず、変化するにしても外部の強制や干渉によるにすぎないと考えるから。

(9) 企業者(家)には**銀行**が資金を提供して活動を支援する。銀行は信用を供与し危険を負担する。

[コメント]

「創造的破壊」「イノベーション(刷新)」「新結合(あるものとあるものを新しく結びつける)」「企業者(企業家)」という、今日ではあたりまえのように用いられている「考え方」の提唱者、シュンペーター先生の代表的著作の1つが本書。文系、理系に関わりなくイノベーションを口にする人は是非御一読を。1回ではわかりにくいので、2~3回ゆっくりとお読みください。